

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	仙北市ツーリストインフォメーションセンター事業費			
担当課係名	観光課	仙北市TIC係	作成者	富木 弘一
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 28
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし		
	主要施策	観光資源の掘り起こし		
予算費目	一般会計	7款 商工費	1項 商工費	3目 観光費
事業期間	平成 23 年度 ~ 平成 - 年度		新規/継続の区分	新規
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス	<input type="checkbox"/> 公共事業	<input type="checkbox"/> 施設維持管理	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理
根拠法令等	仙北市ツーリストインフォメーションセンター設置要綱			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務		
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営	<input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部民間委託)	<input type="checkbox"/> 民間委託(全部)	<input type="checkbox"/> 補助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	1. 仙北市を訪れた観光客に周辺地域を含めた秋田県内広域の観光情報を提供する 2. 仙北市に来た観光客のため、観光事業者と連携し広域的な着地型体験旅行商品の企画・造成等を行う
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	広域の観光案内をすることで仙北市以外への観光客の誘導を進める。また新しい着地型体験旅行商品を企画造成し販売することにより、仙北市への新たな観光客誘客につなげるとともに、訪れた観光客の滞在時間を延ばす事により、観光事業者の収入増につなげる
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	1. 広域・訪日外国人観光案内 2. 仙北市内体験ツーリズムの推進 3. 着地型旅行商品の企画・造成及び販売システムの構築 4. 秋田内陸線の利活用の推進

【事務事業の推移】

項 目		単位	23年度実績			
効果	活動指標 体験プログラム造成件数 (ツアーセット数) ※各事業所プランを除く	目標	個	40		
		実績	個	33		
		達成度	%	82.5%		
	成果指標 体験メニュー利用者	目標	人	400		
		実績	人	332		
		達成度	%	83.0%		
投下コスト	項 目	総事業費	23年度決算額(千円)			
	事業費(人件費を除く)(A)		3,677			
	人 件 費 (B)		25,437			
	職 員 数		3.00			
	職 員 平 均 人 件 費		8,479			
	(A)+(B) 投下コスト		29,114			
	財源内訳	国 庫 支 出 金		0		
		県 支 出 金		0		
		地 方 債		0		
		そ の 他		0		
		一 般 財 源		29,114		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		882,242			
	市民1人当たりのコスト(円)		978			

【事務事業の今までの成果】

この事業は新しい取り組みで、県と市で組織を立ち上げ、市内の観光事業者と連携して体験プランを造成し内陸線旅行センターで販売を行っている。今までは各事業者が個別にプランを旅行事業者や観光客へPRしていたのが、TICがコーディネートすることにより観光客はワンストップで申込みが出来る利便性が生まれ、仙北市をトータルした紹介が出来るようになった。23年4月から販売開始したが震災の影響もあり観光客の動きも鈍く夏場になり徐々に申込みが出てきた。各メディアを使い紹介するなどPRに努めている

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	他の自治体で、県と連携して着地型旅行商品の造成等を行っている例がない。他に先駆けた機能合体組織として県では協力体制を取ってくれている
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	体験メニュー参画事業者からはどんどん新しいプランをPRしてもらい観光客の誘客を進めてもらいたいと言う要望が出されている。仙北市以外の周辺市町村からも連携の要望があり、大仙市や美郷町、横手市を含めた旅行プランをエージェントに販売しツアーを実施した。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	新規事業のため、実績は低い観光客誘客のために必要な事業と考えている。体験メニューの内容を精査し販売実績につながるプランを造成するように事業を進める
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
東北観光博、秋田DCと国民文化祭、観光イベントが続けて秋田県で開催されるので、観光客に体験メニューのPRを進めるとともに、旅行会社エージェントへも売り込みをすすめ、販売実績につながるよう取り組む

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	更なる観光客への利便性向上や内陸線活用商品の造成を行い、実績につながるような取組を実施することが求められていると考えます。

